



2019年入庁/事務職

2018年入庁/事務職

2019年入庁/事務職

2014年入庁/事務職

2018年入庁/土木職

2016年入庁/図書館司書

2017年入庁/保健師

2018年入庁/保育士・幼稚園教諭

変わろう。

8つのストーリー  
WEBで公開中



「待ち」の仕事を想像してた。  
融通のきかない仕事だと思ってた。  
でも、全然違った。  
自分が動けば  
人の気持ちや関係性が変わって、  
ほんの少し、地域の温度もあがった。  
ものすごく嬉しかった。  
日々のあたり前が変わる時だから、  
あたり前を支える私たちも変わる。  
さあ、次の50年をいっしょにつくろう。

## 生駒市職員採用

2023年4月1日採用予定  
公務員試験 対策不要  
生駒市職員採用試験

< 申込受付期間 >  
2022年3月25日(金) ~ 4月10日(日) 23:59

採用説明会  
2022年3月12日(土)



詳細や申込みは左のQRコードより

## Story #1

### 主体的に動き、 「意識が変わる瞬間」をつくる

SDGs推進課／平成31年入庁

河村 祐希



市職員の仕事って、来庁者への対応とデスクワークだと思っていました。配属された課では、1年目から環境を楽しく学ぶイベントの企画・運営を担当。あるとき、来場者数十人に声をかけ、直接感想を聞いたんです。ペビーカーの置き場所や日程への希望などを教わり、こういった声を次につなげることが大切だと気づきました。イメージしていた「待ち」の仕事とは違って、市職員は自分から積極的に動くことが必要でした。

令和2年10月、「SDGs de 地方創生」というカードゲームの体験会をしたんです。一人ひとりの行動がまちの未来に結び付いていることを疑似体験するゲームで、会場は想定以上の熱気にあふれました。そんな雰囲気促され、私も気づいたら自然とその輪に入って、一杯のアシストをしていました。終了後に

「自分だけのことを考えていては、地域は良くなりません」「誰がどんな資源や目標を持っているか、対話して情報を共有することが大切」といった感想をもらい、わずか数時間のイベントで皆さんの「意識が変わる瞬間」を目の当たりにしました。

生駒市は「SDGs未来都市」に選定され、県内で唯一SDGsを推進する専門部署があります。SDGsをテーマにした広報紙の特集記事がきっかけになって、中学校や高校の授業に関わることもありました。継続して活動されている人や団体の皆さんはもちろん、若い世代にも興味関心を持ってもらい、みんなで取り組める仕組みを考えたいです。

## Story #2

### 地域が変わる兆しに 立ち合える仕事

都市計画課住宅政策室／平成26年入庁

日和 岳



空き家の流通施策など住宅政策全般を担当しています。それまでは環境部門で、歩きたばこ防止条例の策定に携わったり、1日に何十件も寄せられる市民の方々の困りごとや問い合わせに対応したりしていました。

異動してすぐ、地域の特性に応じたまちづくりを進めるために、住民の方々と地域の現状や課題を共有し、ミライを考えるワークショップを担当しました。人員が限られているので、関われる地域は1年に1か所だけ。僕たちも事前に地域を隅々まで歩き、歴史も学びます。当初は「こんなことして何になるんやろう。地域のことを考えている人って、どれだけいるんやろう」って、半信半疑でした。

回を重ねるごとに、少しずつ交流が生まれました。地域内で採れた竹筒に

木の実を詰めて鉄砲にしたり、つるからリースを作ったり。ご高齢の方にとっては当たり前のことを伝えるだけで、若い世代や子供たちがものすごく喜んでくれる。その姿を見て、さらに意欲的に関わってくださって。自然とお互いを思い合える輪が広がっていました。

ただただ「すごいな」って思いました。これが地域が変わる兆しなんじゃないかって。環境部門で対応していた「音がうるさい」とか「あの家の木が邪魔」という声が減っていくきっかけになるかもしれない。お金ではなく、時間と手間をかけて、徐々に変わった気持ちと関係性の先には地域の新しい姿があるし、それをサポートできることがうれいんです。